

ダダオ/Dadao

(グラフィックデザイナー) 広島出身、三重在住

どついたるねん、フジロック(仮)、川本真琴、姫乃たま等、数多くのアルバムジャケットを手がける。2019年には、2011年から制作されたCD、レコード、ポスター、フライヤーなどおよそ300点を展示する個展「ダダオレコーズ」を東京にておこなう。自らトバリ族研究家と称し、2021年海の博物館ギャラリーにて、創作物と実物資料などの空間から、海の民の歴史をひもとく企画展「漂流海民トバリ族」を実施。ほかにも海の博物館企画展のポスターデザインを多数手がける。



リンダ・デニス/Linda DENNIS

(アーティスト) オーストラリア出身。神奈川県在住

東京と三重県に拠点を置き、世界を理解し捉える方法として「touch」という行為に着目し、日本で10年以上活動している。2010年東京藝術大学で博士号を取得。2014年「タッチ・ベース・クリエイティブ・ネットワーク」を設立。現在女子美術大学芸術学部教授。2016年海の博物館と三重県立美術館にて漁網作品の展示を実施したことをきっかけに鳥羽でアート活動を開始する。海の博物館とも多々コラボレーションをおこなう。2019年「AmaDivers&Artists 自然とともに生きる海女とアーティスト」企画。

企画展「海女がつなぐ13人のART -Ama & 13 Artworks」

会期：2023年4月8日(土)～6月25日(日)

場所：海の博物館ギャラリー

志摩半島では、この50年で約4000人いた海女さんも、514人と8分の1に減少しました。今そのほとんどが60代～70代、この先10年後20年後の海女の存続が危ぶまれています。高齢化後継者不足はもちろん、海の環境の変化は、漁獲物の減少にも大きな影響をあたえ、海女の減る原因にもあげられます。

この現状や海女文化をもっと広く伝えるべく、今回は、三重県や当館に縁のあるアーティストたちによる多様な作品を通じて、海女文化に興味を持っていただければと思いました。表現し続けるアーティストたちも、海だけでなく環境の変化を敏感に感じ、作品を制作し続けています。自分の息だけで、自然に逆らわず、とりすぎない漁をする稀有な存在である海女、アーティストたちにどのようにうつるのでしょうか？抽象画や版画、イラスト、写真やコラージュ、そしてダンスなど異なるアプローチで【海女】を表現した作品を展示します。海女文化を身近に感じていただくとともに、新たな若い世代の海女ファン作りに一役買うことができればと思っております。

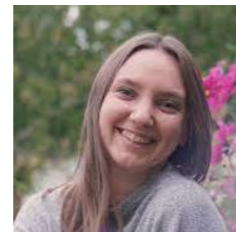
鳥羽市立海の博物館



蘭陵亭子梅 / Shibai RANRYOTEI

(妖怪書画家) 愛知県出身。京都在住

大学時代より独学で絵の技術を習得し、妖怪や神様等の日本的なモチーフを主に墨の濃淡だけで描いたりする。会社勤めの傍ら、妖怪関連書籍の挿絵や御朱印原画など各方面で精力的に活動をおこなう。最近では「アラマタヒロシの日本全国妖怪マップ」にて表紙原画や中面の書き下ろし挿絵を担当する。2022年海の博物館の特別展「海の妖怪ワールド」にて、海の妖怪2点を制作。そのうちの1点。



リー・クラッチ/lee krutsch アーティスト

ドイツ出身・在住

現在フリードリヒ・アレクサンダー大学エアランゲン＝ニュルンベルグ大学院卒業。2018年9月～1月女子美術大学に交換留学。ドイツの大学と女子美術大学のスカイプ授業に参加してから日本に興味をもち、日本に留学。天然の岩絵の具の勉強を始める。現在いろいろな場所から集めた岩から作った絵具で作品制作をおこなっている。2020年鳥羽に滞在し、鳥羽の石や貝殻で絵具を作り、海女漁村を訪ねた時の思いを作品に仕上げている。

Ama & 13 Artworks

In Toba-Shima region, the number of Ama divers has decreased to one-eighth over the last 50 years, from about 4,000 to 514. Most of them are now in their 60s and 70s, so the existence of Ama in the next 10 to 20 years is facing a serious risk. In addition to the aging population and lack of successors, changes in the marine environment have a major impact on the decline of catches, which contribute to the crisis.

In order to spread the word about this situation and the culture of Ama, we hope to stimulate interest in Ama culture through a variety of artworks by artists with ties to Mie Prefecture and the Toba Sea Folk Museum.

The artists also continue their creation being sensitive to changes in the environment. How do they see Ama, a unique and rare group of fishermen who dive into the ocean with simple fishing tools using their own breath, and catch only what the nature allows them to?

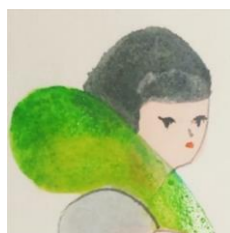
The exhibition will feature works that depict the Ama through different approaches, such as abstract paintings, prints, illustrations, photographs, collages, and dance. We hope this exhibition will help visitors familiarize with the culture of Ama and create a new generation of Ama fans.



前納依里子/Yoriko MAENO

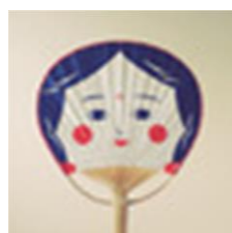
(振付師) 東京都出身。ドイツ在住

19歳よりコンテンポラリーダンス、ミュージカル、演劇などジャンルを越え国際的に活躍。2008年より自身の創作活動を始め国内外で作品を発表。2019年ベルリン芸術大学提携研修講座にて発表した高齢者とのダンスプロジェクトが注目を集める。現在はベルリンを拠点に振付家・ダンサー・講師として活動。今回の作品は、海女漁の歴史と現在をテーマに、ダンス、音楽、美術、映像が融合する舞台芸術作品でしたが、コロナ禍舞台が中止となり、映像作品として発表されたものを上映しています。



いとうひでみ/Hidemi ITO
(イラストレーター) 東京在住

イラストレーター。書籍装画、東京スカパラダイスオーケストラ CD ジャケット、アートワークやイベント用キービジュアルなどを担当すると同時に、少女や超能力のモチーフを中心に、ゆるくシュールなオリジナル作品を発表している。2014年第192回チョイス入選。2015年第13回TIS公募入選。2022年に参加した磯フェスにて海女を描く。



ウィギーカンパニー/WiggleCompany
(図案家) 福井在住

北陸を拠点に、関東・関西 各地で活動中。包装紙などの紙雑貨を中心に作品を製作するほか、お店や作家さんの手ぬぐい、神社のおみくじ、舞台の幕などオリジナルの図案を生かし、幅広く展開している。日本の古典文様からモダン、ポップなモチーフまで様々な要素を取り入れつつ、独特な世界観の図案を手掛けている。2019年、海の博物館で実施した海女学講座に参加したことがきっかけに、ミュージアムショップの海女グッズのデザインにも携わる。



荻野夕奈/Yuna OGINO
(画家)東京在住

2007年東京藝術大学大学院美術研究科修了。花や人物といった、作者にとって身近な生物を主なモチーフにし、半抽象画を描く。筆やペインティングナイフで描き重ねていくだけでなく、一度描写したものを削りとり、あるいは布で拭き取るなどを繰り返し、キャンバスと向き合った時間の痕跡を残すように、重層的で複雑なマティエールの絵画を作り上げている。国内はもちろん海外での展示会にも多々参加している。2019年3月鳥羽市に滞在、企画「AmaDivers&Artists 自然とともに生きる海女とアーティスト」に参加。



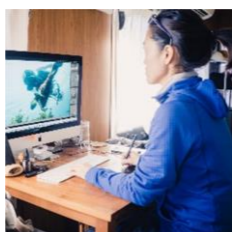
後藤美月/Mizuki GOTO
(イラストレーター) 三重県出身。東京在住

名古屋デザイナー学院卒業後、三重県四日市の子どもの本専門店・メリーゴーランドに勤務。2008年に上京。書籍装画や新聞雑誌の挿絵、web イラストレーションなどを描く。2017年に自作絵本「おなみだぽいぽい」を出版。FM802 digmeout・RECOMMEND artist 登録。玄光社イラストレーション主催 チョイスに4回入選ほか受賞歴多数。2012年海の博物館特別展「えほんで行こう！海の大冒険」に参加、「海女さんがいっぱい」はその時の作品。



稲垣美侑/Miyuki INAGAKI
(画家) 神奈川県出身。茨城県在住

2021年に東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程美術専攻油画博士号を取得し、現在制作を行っている。庭や空き地、住居等をモチーフに、土地や風景、個人との相互作用的な関係性によって生起されるイメージを考察し、ペインティングやインスタレーションによって再構築する。個展やグループ展を多々実施、2019年3月鳥羽市に滞在、企画「AmaDivers&Artists 自然とともに生きる海女とアーティスト」に参加。



大野愛子 / Aiko OHNO
(フォトグラファー) 東京出身、三重県在住

2002年東海大学海洋学部水産学科卒業。2005年東京ビジュアルアーツ写真学科夜間部中退。2016年より地域おこし協力隊として鳥羽市で海女見習いとなり、3年の任期を終え海女として定住。同時に水中の海女や海女の日常を撮影し、写真展を多々実施している。鳥羽市の観光としてフランスやシンガポールにて海女のPRにも参加。2019年企画「AmaDivers&Artists 自然とともに生きる海女とアーティスト」に参加。



長嶋祐成/Yusei NAGASHIMA
(魚譜画家) 大阪出身。石垣島在住

京都大学総合人間学部卒。卒業後、思想と社会の接点を模索して服飾専門学校に進学、クリエイティブを学ぶ。同卒業後はアーティストブランドに勤務、のち広告・コミュニケーションの業界へ転職。その傍ら行なっていた画業を2016年から本業としている。2018年海の博物館ギャラリー企画「三重・くらしの魚」に作品展を開催。この海女の作品は、2019年国連に制定された世界海洋デーのWEB用のビジュアルとして描かれたもの。魚ばかり描く長嶋氏が人を描くのはとても珍しいです。



ゾイ・ポーター/Zoe PORTER
(アーティスト) オーストラリア在住

2014年、州立グリフィス大学大学院ビジュアルアーツ研究科博士後期課程修了。表現方法は、絵画、インスタレーション、パフォーマンス、彫刻や映像など。2019年鳥羽市に滞在し、海女漁村のリサーチやインタビューをおこない作品を制作する。2020年海の博物館、石鏡旅館組合、鳥羽市でおこなう企画「自然とともに生きる海女とアーティスト 昔と今。石鏡町と神保町にダイブ！」に参加。その後もオーストラリアで精力的に海女をテーマとする作品を発表している。